日本遺族通信
令和8年6月15日
第906号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0074東京都千代田区九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　重井　攻
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

常務理事会 第37回理事会 を開催
令和7年度決算等を議決

5月12日、常務理事会を開催し、令和7年度決算、平和の語り部事業の今後の進め方、令和9年度の政府予算に対する要望事項等を審議し、議決された。そして、第36回理事会を書面決議にて開催したが、理事全員の同意が得られなかったため、5月27日、第37回理事会をオンライン・電話形式で開き、過半数の理事から承認を得て、原案通り議決された。

今回の常務理事会、理事会で承認された議案は、令和7年度事業報告及び決算・収支計算書等、公益目的支出計画実施報告書、「戦後80年からの組織継承3カ年計画」と平和の語り部事業の今後の進め方、英霊顕彰運動及び処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法、令和9年度政府予算に対する要望事項等。

特に令和8年度の予算が2・6億円と大幅に増額された平和の語り部事業では、各支部の語り部実施回数56回を目標とし、効果的な事業展開として児童・生徒向けの語り部を強化し、新たな語り部の育成と技術向上、広報向けの企画の開催等が提案された。

また、令和9年度政府予算に対する本会の要望事項として、新たに平和の語り部事業を永続的に実施する目的として「次世代育成事業」の創設、体験者と次世代が共に海外の旧戦域で慰霊と友好親善を図る国際交流事業の拡充強化、遺骨収集事業で現地に留め置かれている遺骨の早期送還、政府慰霊巡拝の本会への一部委託として旧ソ連地域の早期再開等が盛り込まれた。

水落会長宮中晩餐会へ
日比友好尽力者として



マルコス大統領と乾杯される天皇陛下＝5月27日、皇居・宮殿豊明殿で　写真提供＝時事通信フォト

国賓として来日したフィリピンのフェルディナンド・マルコス大統領夫妻を歓迎する天皇皇后両陛下主催の宮中晩餐会が5月27日夜、皇居・宮殿の豊明殿で開かれた。日比友好尽力者として水落敏栄本会会長が招待を受けた。本会会長としては初。

天皇陛下は国交正常化70周年に触れ、「先の大戦後の両国の歩みは平たんではなかったが共に手を取り合い、友好関係を確固たるものとした」と語られ、マルコス大統領からは「両国の相互理解、友情、連携は何世代もの人々によって築かれてきた」と答えた。

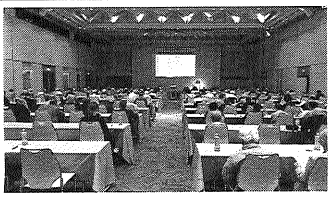
水落会長は出迎えに立たれた皇后陛下と大統領夫人に対し、これまでに5千人の遺児が比島各地へ慰霊訪問した感謝を述べた。

語り部事業
昭和100年記念
「昭和の日」関連企画各地で開催

日本遺族会は昭和100年企画として全国47都道府県で「昭和の日」関連イベントを開催する。4月29日(水・祝)当日に実施した7支部の企画を紹介したい。(朗読劇は「出征兵士を見送る家族の物語」)

○秋田県　春季例大祭に合わせ、県護国神社において面山浩康宮司による「境内にある慰霊碑について」の講演を実施。地域の戦争の記憶を伝える方途を学んだ。

○新潟県　県遺族会事務所で、体験者、青年部による朗読劇。学校での展開について研修した。



語り部大会を開催、遺児が洋上慰霊の体験を報告＝4月29日、徳島グランヴィリオホテルで



青年部の朗読劇と女性遺児の講話会を開催＝4月29日、大分県護国神社で

○福井県　福井市フェニックスプラザで平田修次副会長（遺児）によるアレンジを加えた体験者と青年部の朗読劇を上演。あわせて戦没者遺族の戦中戦後を描いた映画「神の島」を上映。新聞、テレビ、WEBにより報道された。

○鳥取県　米子文化会館会議室で体験者と青年部による朗読劇と鳥取市森幸美さん（遺児）による自分史の朗読を上演。森さんは石ころが入った遺骨箱を受け取った衝撃や命がけで家族を守った父と母への感謝を伝えた。NHK鳥取放送局による予告、新聞広告により、一般市民が多数参加した。新聞、テレビ、WEBにより報道された。

○山口県　県護国神社、防長英霊塔の春季慰霊祭に合わせ、午前午後2回にわたり、語り部講話を実施した。

○徳島県　徳島グランヴィリオホテルにて平和の語り部大会を開催。昭和100年語り部事業の展開、洋上慰霊参加報告として、国府地区遺族会戸井田龍行会長が9カ所での慰霊祭の様子や、戦争の残酷さを伝えた。最後に、大石宗南海支隊戦友遺族会高知県支部長（次世代）から富山丸の悲劇、戦没者慰霊碑のあり方等の講話を実施し、新聞、テレビ、WEBで報道された。

○大分県　県護国神社で青年部による朗読劇と小野幸子女性部長（遺児）による講話が披露された。幼少期にビルマ戦線で父を亡くし、母と歩んだ戦後を通し、平和の尊さを伝え、新聞、テレビ、WEBにより報道された。

今後も8月にかけて全国で開催される。

本会関係者に栄えある受章
春の叙勲

政府は、令和8年春の叙勲及び褒章受章者を発表した。栄誉に輝いた本会関係者は次の方である。

▼旭日双光章
山岡　芳幸氏（84歳）
日本遺族会元理事、京都府遺族会副会長

支部長交代
滋賀県で

滋賀県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

▼滋賀県遺族会
辻　正人氏
（5月16日付）

声なき声

近所にトウネズミモチの高木があり毎年夏に白い小さな花を房状に咲かせる。秋には紫色の実を、これもブドウの房のようにたわわにつける。その実をついばみにヒヨドリが群がる光景に季節の移り変わりを感じる▼数年前から夏になると高架下に生える不気味な植物を見かけるようになった。土の見えないコンクリートのひび割れから茎が直立に高さ1m以上に伸びて、茎先に黄色い花を咲かせる。調べてみるとビロードモウズイカというヨーロッパからの外来種だった▼はじめは存在に違和感を覚えていたが、近頃は年々増え続ける逞しい生命力に驚きながら、花を見れば本格的な夏がやってきたと思うようにもなった▼トウ（唐）ネズミモチもその名のとおり中国原産で、繁殖力の高さから要注意外来生物に指定されているようである。在来種への影響は別にして、これらの外来植物が環境に順応し、歳月を経て日常に溶け込んでいる姿には感心してしまう▼感情を持つ人間の世界はそう単純ではないドイツの哲学者ショーペンハウアーの寓話「ヤマアラシのジレンマ」のように、人間同士は親しくなりたくて近づきすぎると、つい感情の針で相手を傷つけてしまうことがある。それを繰り返しながら、お互い居心地の良い関係性を模索しなければならないのである。（S）



御祭神のご遺徳を子々孫々に継承するために
永代神楽祭のご案内

靖國神社では、ゆかり深い御祭神奉慰のため永代神楽祭（命日祭）を日々斎行しております。この祭典では、毎年ご命日またはご指定の日に本殿にて御祭神名を奏上、御神楽を奉奏し慰霊顕彰申し上げます。

一度お申し込みいただきますと、永代にわたり祭典を行います。

御祭神のご遺徳を子々孫々に継承するために、皆様のお申し込みをお待ち申し上げております。

【祭資料】金十万円から（御祭神一柱につき）

【神楽奉奏日】一年に一度（ご命日またはご希望の日をお申し込み時にご指定いただきます）

◆毎年、事前にご案内状をお送りしご参列の有無や人数を伺います。
◆家族・縁故の方々も一緒にご参列できます。（代理の方のご参列も可）
◆詳しくはパンフレットをご請求下さい。

靖國神社　永代神楽祭係
〒102-8246
東京都千代田区九段北3-1-1
電話：03-3261-8326（代表）
FAX：03-3261-8320（直通）

戦没者墓苑拝礼式

佳子内親王殿下が御臨席

新たに193柱の遺骨を納骨

厚生労働省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式が5月25日、秋篠宮家次女・佳子内親王殿下の御臨席を仰ぎ挙行された。式典では、政府の遺骨収集事業により硫黄島、旧ソ連、マーシャル諸島等で収容した戦没者の遺骨のうち、遺族に引き渡すことができない193柱が同墓苑に納骨された。式典には、約430人が参列し戦没者の冥福を祈った。

式典は、午後零時28分、国歌斉唱の後、上野賢一郎厚生労働大臣の先導で御臨場になり、開式した。

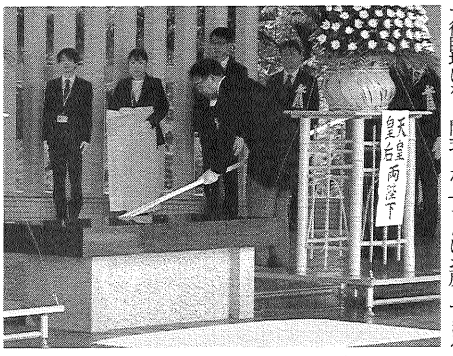
上野賢一郎大臣は式辞で「一柱でも多く、一日も早くふるさとにお戻しできるよう、全力を尽くす」と挨拶。「戦後80年が経過し、大戦の教訓と記憶を風化させることなく、継承していくことが喫緊の課題」と述べた。

式辞の後、上野大臣の手により同墓苑の六角堂に遺骨が納められた。

今回の式典で遺族に引き渡すことができない遺骨193柱が納骨され、既に納骨された遺骨と合わせると37万1167柱となった。

納骨後、佳子内親王殿下の御拝礼に合わせ参列者一同も拝礼し、殿下御退場後、皇宮警察音楽隊による奉楽が奏でられる中、高市早苗内閣総理大臣が献花を行った。続いて水落敏栄本会会長、参列支部遺族会代表8人が献花した後、インド、インドネシア、ミクロネシア等関係国駐日大使、森英介衆議院議長、関口昌一参議院議長、大串正樹衆議院厚生労働委員長、小川克巳参議院厚生労働委員長、茂木敏充外務大臣、石原宏高環境大臣、小泉進次郎防衛大臣、各政党代表、各関係団体代表、最後に上野大臣が献花した。

式典終了後には、全国の遺族代表、令和7年度遺骨収集事業参加者等、多くの参列者が拝礼を行うため、六角堂の献花台に向い長い列をなし、戦没者の冥福を祈った。



上野賢一郎厚生労働大臣の手により遺骨が納められた
＝5月25日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で



御拝礼を終えられ御退場になる佳子内親王殿下
＝5月25日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

マリアナ諸島遺骨拝礼

鑑定待つ遺骨を緊急奉還

5月26日、厚労省内において令和8年度マリアナ諸島戦没者遺骨収集派遣遺骨拝礼式関係団体代表による拝礼式が執り行われ、本会を代表して水落敏栄会長が参列し献花した。

今年4月、超大型台風4号（シンラコウ）がサイパン島とテニアン島を直撃し、北マリアナ諸島を生し、北マリアナ諸島で収骨し、日本でのDNA鑑定等の結果を待つ遺骨をサイパン島のHO歴史保存局に保管していたが、この台風の影響でその保管施設が浸水する被害を受け、現地関係者により遺骨を安全な場所に移動させるなど緊急措置がとられた。

現地ライフラインの復旧の目途が立たない中、推進協会と厚労省は、安置されている遺骨の尊厳を考慮し、緊急的に遺骨を日本へ持ち帰るため、遺骨収集団を派遣することを決定した。

派遣団は5月16日に出発し、浸水の影響を受けた遺骨を確認し、22日に749柱相当の遺骨とともに帰還した。遺骨は鑑定結果が出るまでの間、厚労省が保管する。



マリアナ諸島遺骨拝礼で献花する水落会長
＝5月26日、厚生労働省社会・援護局で

遺骨収集 厚労省へ要望書提出

5月26日、水落敏栄本会会長は、厚生労働省社会・援護局会議室で同省大臣官房・援護担当伊澤知法審議官と面会し、戦没者遺骨収集事業についての緊急要請文を手交した。

水落会長は4月に伊澤審議官から、DNA鑑定による判定結果が出るまでの間、多くのご遺骨が現地に留め置かれている状況を踏まえ、日本人の蓋然性が高いと判定されたご遺骨を未焼骨で本邦へ送還する試行的な取り組みを行うことについて説明を受けた。これに対し、「一柱でも多く、一刻も早くご遺骨を祖国に迎えることが遺族の願いである」と述べ、試行的取り込みに理解を示した。

そして、長期にわたり現地で保管されている間に自然災害、政情不安等で遺骨の消失、紛失が危惧される地域もあり、遺骨の尊厳について懸念が拭えない状況にあるため、日本遺族会として、「遺骨収集は遺族の心情を第一に考え取り組むこと」、「現地に留め置かれている遺骨を早期送還する措置を講ずること」、「送還された遺骨を厳かに出迎え、尊厳が保てるよう保管すること」等を緊急要請した。また、要請文では、フィリピン等、国において個別協議が必要な地域について、遺骨収集が実施できるよう迅速な対応を求めている。



伊澤審議官へ緊急要請文を手交する水落会長
＝5月26日、厚生労働省社会・援護局で

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

南洋諸島等に相次ぎ派遣

戦没者遺骨収集事業

日本戦没者遺骨収集推進協会（推進協会）は、令和8年度の現地調査、遺骨収集派遣を海外4地域で相次いで実施し、本会からもそれぞれの地域へ参加協力した。（実施表別掲）

パラオ諸島ペリリュー島では派遣体制を前半、後半に分けて編成し、日数や人員を大幅に増強して、埋葬者1086名とされる集団埋葬地を重点的に掘削し、約140柱相当を超える遺骨を収容して、検体を採取した。

東部ニューギニアでは米国立公文書館情報に基づき、フィンシュハーフェン周辺で日本兵の集団埋葬地の可能性がある場所を捜索した。

インドではインド文化省人類学調査局及びコヒマ科学大学の支援を受けコヒマ周辺のビスウェマ、チャガバマ、プツェロ地区6カ所で調査を行ったが遺骨の発見には至らなかった。

ミクロネシアでは、昭和47年にポンペイ島で、昭和48年にコスラエ島でそれぞれ遺骨収集が実施されて以来、初めて現地調査を行ったが、遺骨の発見には至らなかった。

なお、マリアナ諸島の現地調査はサイパン、テニアン島に台風が直撃したため、また、ビスマーク諸島ブーゲンビル島への現地調査もサイクロンの影響で、いずれも現地では停電、洪水や土砂崩れも発生し甚大な被害を受けたため中止となった。今後は現地の復旧状況を確認、調整して実施する。

令和8年度 日本戦没者遺骨収集推進協会主催
現地調査・遺骨収集実施表

＜海外 現地調査・遺骨収集＞

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数
パラオ諸島現地調査 第1次 前半	ペリリュー島	4月29日～5月14日	1人
パラオ諸島現地調査 第1次 後半	ペリリュー島	5月13日～5月28日	2人
東部ニューギニア 現地調査・遺骨収集 第1次	フィンシュハーフェン	5月9日～5月29日	1人
インド現地調査 第1次	コヒマ	5月10日～5月23日	1人
ミクロネシア現地調査	ポンペイ島、コスラエ島	5月12日～5月23日	1人
マリアナ諸島現地調査 第1次	テニアン島	4月19日～5月2日	中止
ビスマーク諸島現地調査 第1次	ブーゲンビル島	6月1日～6月21日	中止

本会事務局で人事異動

本会事務局では、5月11日付で人事異動を発令した。

▼福祉事業部長代理
栗田和彦

大阪市の中学校で語り部講話
体験者と次世代が共に取組

令和7年度の全国における学校等（学童クラブ・公民館等での児童・生徒向け企画を含む）での実施回数は808回を数え、令和6年度比4倍増となった。主な要因の一つとして、体験者と次世代が児童生徒と共に考える多世代間の学びが挙げられている。体験者と次世代が共に記憶の継承に取組んだ大阪市内の中学校での語り部を紹介したい。

5月15日、大阪市立平野北中学校3年生全クラスと保護者に語り部講話を実施した。

依頼には長崎への修学旅行に向けて、大阪大空襲、特攻、長崎原爆投下、最近の世界の紛争と4つのテーマで探究学習をしており、テーマに沿った対話型希望とされていた。

事務局の高齢化により8年度は本部調整となった大阪府の初の講話は、複数人、対話型という依頼に鑑み、大阪府内の講話者に加え、先進県である兵庫県遺族会へ協力を求めた。兵庫県は永続的な事業実施を目指し、体験者と次世代が共に講話に取組んでいる。その中心である北浦基広会長、荒堀修一青年部長（本会ブロックアドバイザー、共に戦没者の孫）の派遣とし、当日は3グループに分かれ講話となった。


戦艦大和の乗務員だった父について語る吉村さん＝5月15日、平野北中学校体育館で

○大阪大空襲・遺族の体験

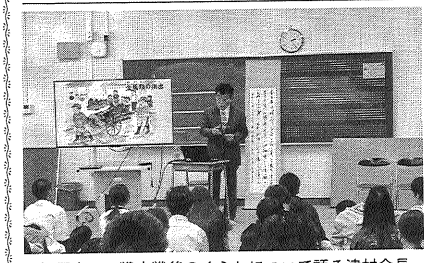
昨年の洋上慰霊への参加をきっかけに講話者となった、大阪市在住の吉村孝史さんは、大阪大空襲の思い出として当時住んでいた奈良で空襲警報により逃げる際、西の金剛山方向が真っ赤に燃えていたと語った。

また、戦艦大和の乗務員だった父との面会に仕事で行けなかった母が99歳で亡くなるまで悔やみ続けていたと話し、「災害は防ぐのが難しいが戦争は防ぐことが出来る」「一人一人が戦争をしないという気持ちを持って」と伝えた。

○大阪の戦中戦後のくらし

昨年から講話に協力している松原市遺族会津村正義会長は、自身の戦争体験や戦後の進駐軍の思い出、食糧事情、社会情勢を語った。

中でも昭和20年6月沖縄戦で亡くなった父について辞世の句を披露し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えた。


松原市での戦中戦後のくらしについて語る津村会長＝5月15日、平野北中学校多目的室で

○長崎原爆投下、戦時中のくらし、特攻

北浦会長は長崎原爆投下について豊富な映像、写真を用いて原爆投下から復興にむけた市民の平和への強い思いを伝えた。

そして荒堀青年部長は兵庫県加西市の平和学習資料を用いた子供たちの戦時中のくらし、加西市鶉野飛行場から飛び立った特攻隊員の遺書を伝えた。

生徒の感想（抜粋）は次の通り。

『今まで戦争に行った人のことしか考えていなかったけれど、亡くなられた人の家族についてしっかり考えなければいけないと思った／戦争は大人だけでなく子供や未来も失うことがわかった／戦争に行った父について、毎日「生きているかな？」と考えるのは絶対に嫌だと思った／戦争が起こらないように何をすればいいか考えようと思った／祖父を戦争で亡くされた語り部さんの言葉の重みを感じた／平和が一番。絶対継承していきます／語り部さんのような団体がなければ将来日本も戦争をするかもしれないと怖くなった』


講話を終え生徒より感謝の言葉を受ける北浦会長と荒堀青年部長＝5月15日、平野北中学校格技室で

当日は毎日新聞社の取材があり翌日掲載され反響を得た。今日も全国で講話が実施されている。

昭和100年企画
各地で広報、研修を実施

1面に続き、全国で開催された昭和100年記念イベントを紹介したい。

○茨城県4月8日、19日、28日　県遺族会事務所会議室、護国神社において、戦没者の遺書「英霊の言乃葉」朗読会を実施。

○長野県4月15日　長野市伊勢社で体験者による自分史朗読を実施。

○富山県4月18日　県護国神社清掃活動後、戦没者の母の手記、戦地からの手紙の朗読を実施。今夏別企画も開催予定。

○愛知県4月22日　県護国神社のはじまりとなった慰霊碑を継承部（次世代）が説明後、女性部と清掃活動を実施。

○三重県4月22日　県遺族会館で8年度語り部大会（研修会）を実施。女性遺児による自分史発表と帰還した父親を持つ、次世代による語り部を実施。

○山形県4月24日　鶴岡市荘内神社にて県遺族会制作平和の語り部DVD視聴と11月の沖縄慰霊の際に奉納する千羽鶴制作を実施。

○福島県4月8日　学校講話予定者の県下各地域12名による実演研修を開催。あわせて講話に活用するために制作した動画を視聴。6月9日にも開催した。

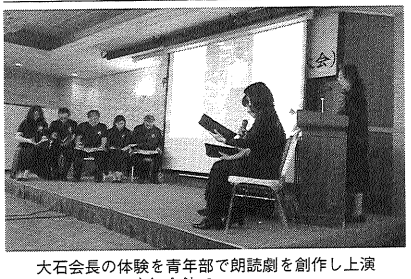
○岡山県5月5日　県護国神社内いさお会館で定期講話会を初開催。戦艦大和の乗組員の叔父を亡くした竹内正弘さんと従軍看護婦の母を日中戦争で亡くした諏訪妙子さん（遺児）の講話を実施。広報と新たな語り部の発掘のため、年度中4回の開催を予定。新聞で報道された。

○香川県5月5日　県護国神社で春季例大祭にあわせ体験者、次世代による朗読劇を上演。

○高知県5月10日　高知会館で遺族大会に合わせ朗読劇を上演。生後6か月だった大石綾子会長を連れ旧満州から引き揚げた母の手記をもとに中岡美佳青年部副部長が制作し青年部で上演。新聞、テレビ等で報道された。

○広島県5月13日　市まちづくり市民交流プラザで学校講話の実践研修を開催。講話を重ねる遺児3人の実演。戦中戦後の体験と地域の歴史、遺児慰霊友好親善事業の体験、被爆した父の戦死と戦後の労苦が披露された。あわせて体験者次世代による朗読劇を上演。

8月に向け実施される様子を引き続き紹介する。


大石会長の体験を青年部で朗読劇を創作し上演＝5月10日、高知会館で


体験者の講話、体験者、次世代の朗読劇を上演＝5月13日、まちづくり広島市民交流プラザで

ミャンマー小学校修繕募金のお礼

日本遺族会がミャンマーの現地に寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、その修繕費用を集めるために開設した「ミャンマー小学校修繕募金」にご賛同いただいた左記の方々に心よりお礼申しあげます。

賛同者名（敬称略）

志村定男、高橋洋子、有福久惠、深井征司、林康雄、上田譲、濵田義則、本山邦良、濱田正信、田中敏弘、音泉敏子、浜崎和則、原田伸次、上原かづみ、土本初代、菊地利邦、髙山宏、松本登志子、前田多稼、小山英機、村上マツ子、夏川嘉一郎、江崎常美、瀬戸茂子、中本喜好、石崎弘子、奥出洋子、山元孝子（郵便振替3月1日～5月27日現在）

津高和子、坂子代克彦（銀行振込5月1日から5月27日現在）

本会は引き続き現地の情報収集に努め、今後の支援については慎重に検討を行い、小学校の修繕に取り掛かることにしている。

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

なお、賛同者の都道府県名は、送金方法により居住地が特定できない場合があり、省略します。

賛同者名（敬称略）

上浦嘉代志、鈴木正行、宮地邦彦、田中敏弘、赤石美美江、星沢豊子、有働嘉代子、福原清美、土本初代、山本泰生、吉田隆治、奥田文子、上村亘子、能美松江、貝嶋武典、岡部博明、野津紘子、野津信、志村定男、赤澤壽子、田村一郎、上岡芳子、森本浩吉、中村公子、宮城地区遺族会、ピタットハウス稲田堤店、ヨシオカタツオ、オカモトキミコ（以上、5月1日から5月27日現在）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

定期講話会のお知らせ

戦争体験者の遺族と次世代が共に記憶の伝承に取組む本部主催の定期講話会。7、8月は家族で考える戦争と平和と題して次世代の講話を予定している。

7月は戦没者の孫が記憶の継承について、8月は次世代から要望の多い「遺骨収集事業」をテーマに多世代で考える講話会を予定。ご家族連れでの参加をお待ちしている。

日時：令和8年7月11日（土）、8月8日（土）共に午後1時から

場所：九段会館テラス4階本会会議室　問合わせは語り部事業本部03・3261・5521まで。

OBON ソサエティ

事業の再委託契約を締結
今後の問題点等を協議

本会が厚生労働省から委託を受け実施している「戦没者等の遺留品の返還事業」で、水落敏栄会長と、今回自費で澤原善男福島県遺族会理事が同行し、5月17日から22日の期間、アメリカのオレゴン州を訪れ、OBONソサエティの共同代表、理事と面会し、本事業の再委託契約を締結して、今後の事業の進め方、問題点等を協議した。

5月18日、在ポートランド領事事務所を表敬訪問した水落会長は、OBONソサエティのレックス、敬子・ジーク共同代表同席のもと、等々力研総領事と面会し、一つでも多くの寄せ書き日の丸等の遺品が遺族の元に返還されるよう、戦勝国である米国等へ本事業への支援を要請していると伝えた。

等々力総領事は、OBONソサエティの意義ある活動を領事事務所のホームページ、インスタグラム等で発信して、多くのアメリカ人に周知していると述べた。

同日午後に、過去に福島県の遺族へ日章旗を返還したポートランド在住のキャシー・パックさんと面会した。

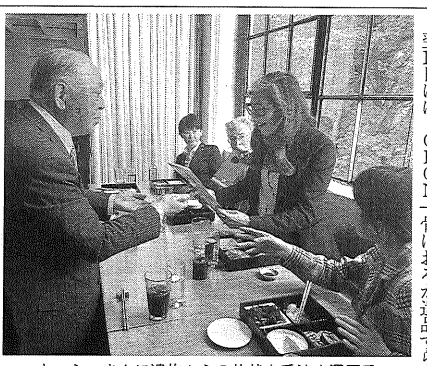
キャシーさんはOBONソサエティの活動に賛同して、とあるアメリカ人の故人の遺品処分セールで日章旗を見つけ自ら購入し、遺族への返還を依頼していた。調査の結果、福島県石川郡で遺族が判明して今年1月に返還式が執り行われ、日章旗が遺族へと引き渡された。今回同行した澤原氏がこの返還式に携わっており、遺族からの礼状をキャシーさんに手渡し、謝意を伝えた。

翌19日には、OBONソサエティの本部があるアストリアで、同団体の共同代表と理事4人と会合を開いた。

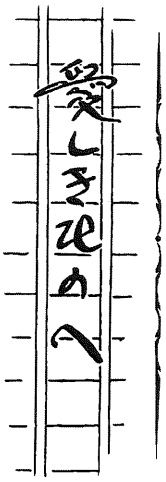
会合で水落会長は、「遺骨はおろか遺品すら還ってきていない戦没者遺族に、寄せ書き日の丸のような遺品をお返しできることは大変ありがたいことであり、そして、若い世代にも戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えることができる大切な事業だと思っている」と述べた。

また、OBONソサエティが一時保管している約3500点の遺留品の中で、引き取り手のない遺留品（遺族が受領を辞退されたもの、特定が不可能なもの）は早期に日本へ送還し、本会で適切に保管することを提案した。


委託契約書に署名する水落会長とジーク共同代表
＝5月19日、オレゴン州アストリアで


キャシーさんに遺族からの礼状を手渡す澤原氏
＝5月18日、オレゴン州ポートランドで

遺言状



陸軍伍長　東川　宗一

昭和十七年六月三日
中華民国・河南省単庄附近にて戦死
東京都目黒区出身　二十四歳

皆元氣かね。俺も元氣だ。愉快に軍務に勵んで居る。
今第一線警備だよ。毎日彈の音を聞くまるで音樂の様だ。どんばん〳〵ものすごいよ。
この間は染谷鶴松氏が支那慰問で思ひもよらない所で面会出来、皆益々元氣との事で、何も心配がなく、ほがらかだよ。第一線なのでいつ彈がくるかも知れず、いつもハリキつてるよ。萬一の場合は皆運命と思つて下さいよ。
初美、百合子、お母さんを大事に孝行して下さいよ。
いつも勞苦ですまぬ。何一つ心配してやらず、本當に話のわからない兄をゆるしてくれ。皆元氣で暮せよ。姉妹仲よく暮せ。貯金少しある。皆でつかへ。
元氣で。

【令和八年六月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

万緑の山に春蝉鳴く知らず幼木をわれに遺しし父よ
青森県　田中　恭子

靖國で会おうと散りし戦友の言の葉聞こゆ靖國の杜
福島県　柴田　征子

戦争が死語になる日を望みつつ平和の語り部講義に臨む
千葉県　石橋　嘉子

今日こそは戦争の記事ない事を期待しながら新聞を待つ
山梨県　土屋　喜雄

二月に勃発したイスラエルとアメリカによるイランに対する大規模な攻撃以来三か月余りが過ぎました。この影響で世界情勢は緊迫し、ペルシャ湾からの原油流通が滞り、石油製品からなる様々な生活物資も高騰しております。しかし何よりも多くの罪のない人々が犠牲となっている報道には胸が痛みます。今月のお歌にも「今日こそは戦争の記事ない事を期待しながら新聞を待つ」「戦争が死語になる日を望みつつ平和の語り部講義に臨む」等々、争いの無い平和な世界を願うものが多くありました。英霊等が希求された世界の恒久平和はいつ訪れるのでしょうか。

（選者）

九段短歌 作品募集

日本遺族通信の九段短歌では、読者の皆様の作品を募集しています。

◎作品には必ず住所、氏名を明記してください。
お寄せいただいた作品の返却はいたしませんので、予めご了承願います。
また、青年部皆様の作品も歓迎します。

「日本遺族会三十年の歩み」
秘蔵映像の復元に成功

この程、本会創立30年を記念し制作され、遺族会結成の経緯から戦没者の犠牲を忘れさせないとする英霊顕彰、遺骨収集にかける思い等が込められた記録映像、「日本遺族会三十年の歩み」の復元に成功した。

フィルムには、昭和46年本会が実施したサイパン島、ペリリュー島での遺骨収集で、ジャングルや洞窟内に無数に残置されたご遺骨を収容する遺族会幹部よりフィルムを託されたこと。

今夏のNHK特集番組の取材過程で、無償協力の依頼を受けフィルム提供を行ったところ、状態が良好であったことから復元に至った。小浜市遺族会、NHKに感謝したい。

今後は本部の各種企画で放映すると共に、複写し、順次各支部へ送付する予定。研修会等で利用してほしい。

和6年12月福井県遺族連合会平和の語り部研修会の際に出席した小浜市遺族会幹部よりフィルムを託されたこと。

戦没者等の遺留品返還事業
OBONソサエティへの支援のお願い

日本遺族会は、アメリカで戦没者の遺品の返還活動を続けているNPO法人OBONソサエティが昨今の急激な円安、アメリカ国内の物価高騰などにより、運営自体が困難な状況に追い込まれている現状にあるため、OBONソサエティへの支援金を募ることといたしました。

OBONソサエティが継続して活動できるよう、そして遺品の返還事業が途絶えることのないよう、ご理解、ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

なお、お預かりした支援金はすべて、本会を通じてOBONソサエティへ寄付させていただきます。

銀行名：三菱UFJ銀行 神保町支店
普通預金：1616825
口座名：一般財団法人日本遺族会
ザイ）ニホンイゾクカイ

地方だより

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

▼長崎県　4月23日
令和8年度長崎県連合遺族会女性部平和の語り部研修会（15人）

▼徳島県　4月29日
令和8年度（昭和100年）徳島県遺族会「平和の語り部大会」（230人）

▼徳島県　5月9日
第105回語り部事業（35人）

▼高知県　5月10日
令和8年度平和の語り部事業研修会・高知県遺族会遺族大会（78人）

▼広島県　5月13日
令和8年度「昭和100年企画」平和の語り部事業研修会（33人）